

環境保全学習プログラム
における
「環境影響評価」

斉藤千映美

宮城教育大学 環境教育実践研究センター

csaito@staff.miyakyo-u.ac.jp

環境影響評価法とは

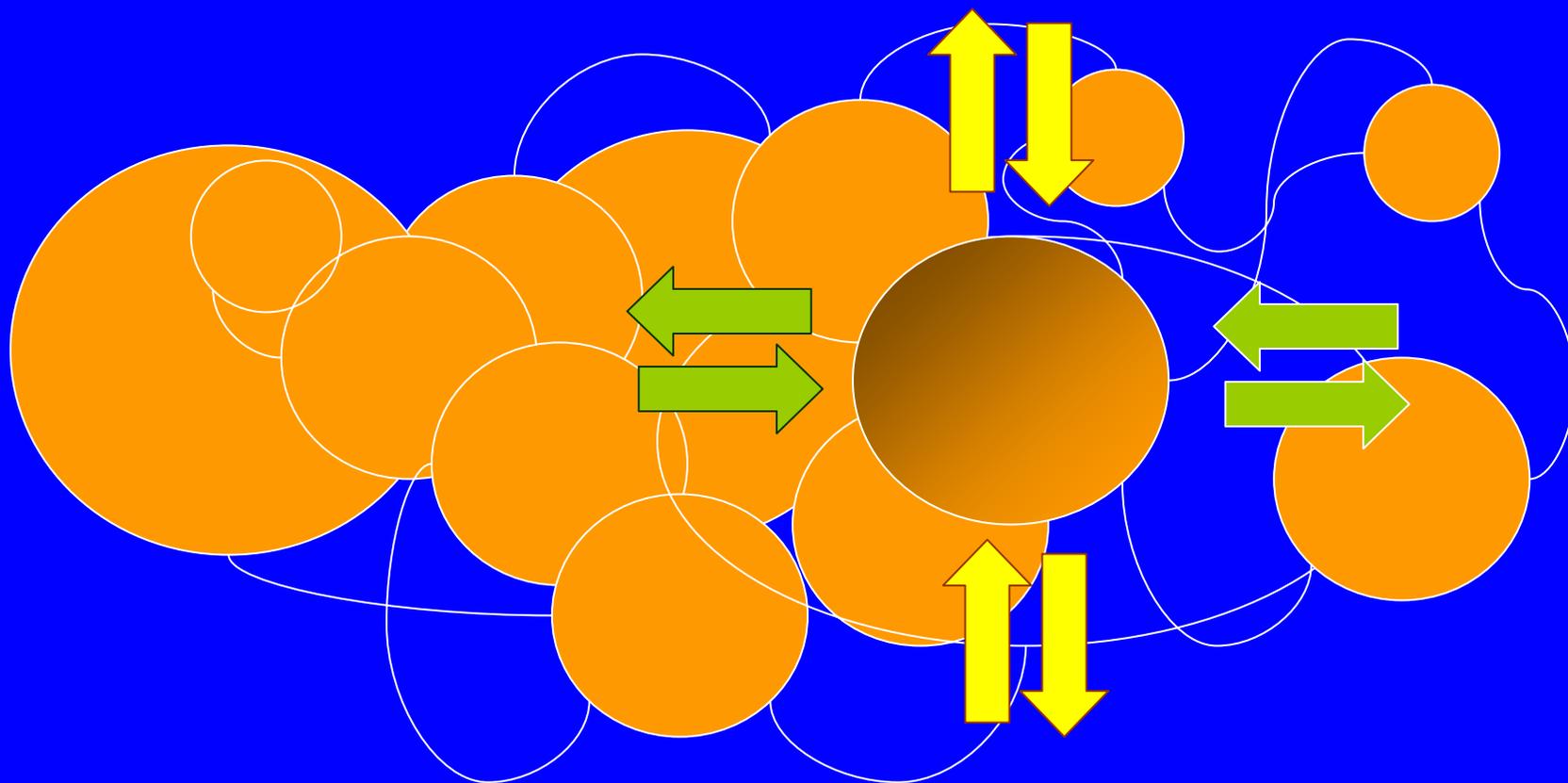
- 別名、環境アセスメント法
- 大規模開発に際して、その事業が環境に与える影響を調査、予測、評価し、事業に反映させることを定めた法律

環境保全とは 環境(系)を維持管理して良好な状 態に近づけること

「良好な状態」をどう定義するか？長期的な視野で考える必要性がある。

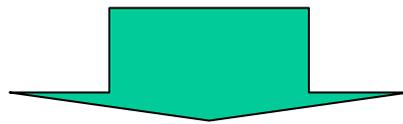
環境は複雑系。手を加えることにより、全体に影響が及ぶことがある。

実際の環境学習でも、
プログラムが個別であるため系全
体への配慮が必要



環境保全学習の目的

- 学習を通じて、具体的に地域環境の保全に寄与する
- 学習を通じて、学習者が環境とのかかわりを認識したり、環境保全の手法を学ぶ



- プログラムが環境保全に適切に寄与するか検討する「環境影響評価」が重要

事例

- 「望ましい環境」についてのイメージ形成
- 移入種
- 餌づけ問題
- ゴミリサイクルなど、コストの問題

「望ましい環境」についての イメージ形成

- 快適な範囲で、人間と自然の共生
- 歴史も考慮して作り上げる景観のイメージ
(「昔はよかった」)
- 極力人為的影響を少なくした生態系の重視
- どれを重視するか、人によって異なるが長期的に良好な環境を保全するためには、できるだけ「無理なく」「自然を重視」すべき



移入種の問題

ブラックバス、帰化植物(在来種の駆逐)

ホタル、淡水魚(遺伝的汚染)

その他





餌付けの問題

- 在来種との関係
- 餌付けによる生態系汚染
- その他

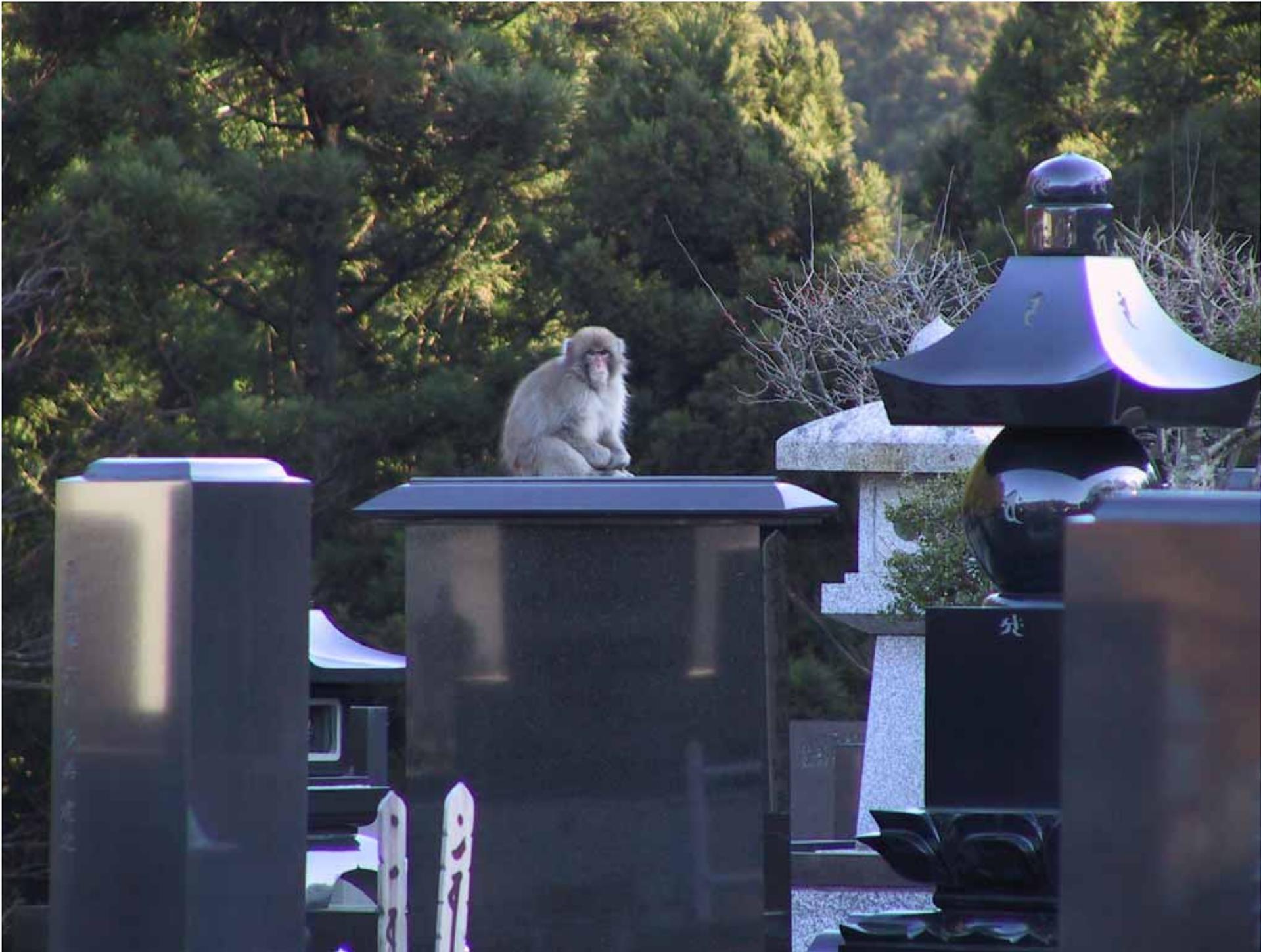


ニホンザルによる農作物被害

- 80年代には全国的に広がり、現在も地域拡大
- 人間の行動や生活の変化が大きな引き金に









1) サルの行動観察



仙台市農政課による環境教育の例

- 「野生動物との接し方」「野生生物との共生は可能か」

対象：小学生

- 「市民ボランティアによる追い払い事業」

対象：一般市民

目的：広く猿害の実態について、知識を広める

あいつらが、また畑にやってくる・・・

SARU

サルの生態

サルの生態について詳しく解説しています。サルの生活のサイクル、食生活、社会行動などについて詳しく説明しています。



サルの行動

サルの行動について詳しく解説しています。サルの生活のサイクル、食生活、社会行動などについて詳しく説明しています。



サルの研究

サルの研究について詳しく解説しています。サルの生活のサイクル、食生活、社会行動などについて詳しく説明しています。



サルの研究

サルの研究について詳しく解説しています。サルの生活のサイクル、食生活、社会行動などについて詳しく説明しています。



サルの研究

サルの研究について詳しく解説しています。サルの生活のサイクル、食生活、社会行動などについて詳しく説明しています。



サルの研究

サルの研究について詳しく解説しています。サルの生活のサイクル、食生活、社会行動などについて詳しく説明しています。



サルの研究

サルの研究について詳しく解説しています。サルの生活のサイクル、食生活、社会行動などについて詳しく説明しています。



© 2002 Nippon University, Nippon Institute of Science, and Nippon Veterinary and Animal Science University

2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31





農村環境保全の 重要性に関する 普及啓発



学習プログラムにおける 環境影響評価

評価事項

- 保全目標の合理性
- 地域環境への影響
- 生物相、生態系への影響
- 法制度との整合性
- 目標に対するプログラムの位置付けは明確か
- 学習者がプログラムの目的と位置付けを理解できるか

計画と実施

- 地域の自然環境や保全の目標に十分留意する
- プログラムの短期的達成目標と、長期的な目的を十分検討し、実施者が共通認識を持つ
- 実施者が必要最小限の知識を持つ
- 専門家に検討してもらう機会を設ける
- プログラム実施にあたり評価を行う

Thank you for your attention!

